



東京芸術祭ファーム2022 ファーム ラボ ビジター 登録受付

[受付締切 2022年8月18日(木)17:00 (日本標準時)]

東京芸術祭ファーム ラボのプロセスをのぞいてみませんか？

「ファーム ラボ ビジター」*は、東京芸術祭ファームをひらく“Open Farm”の一環として実施する見学プログラムです。このプログラムに登録した方は、アジア各地から参加者が集まる東京芸術祭ファーム ラボのビジターとして、活動の一部を見学することができます。

舞台芸術の分野で活動する、または活動を志望する35歳以下の方を対象に登録受付を行います。この機会に是非、他者と協働し地域や分野を超える“トランスフィールド”の最前線にふれてみてください。

*当初、プログラム名を「Open Farm Visitor」と予定しておりましたが変更となりました。

- **参加必須の活動日程はありません。登録者自身の希望やスケジュールに合わせた参加が可能です。**
- **舞台芸術分野のプロフェッショナルとして、視野を広げるきっかけを求める方にオススメです。**

例えば、

- 多様な活動や価値観にふれたい
- 従来からの脱却、アップデートに関心がある
- 国際的な舞台芸術のフィールドで活動をしている
- 今後、東京芸術祭ファームに参加したい …… など。

■ プログラム内容

- 東京芸術祭ファーム ラボ「Asian Performing Arts Camp」「Farm-Lab Exhibition」の活動の一部を見学。各回見学後、オンラインのリアクションフォームにてアンケートに回答（回答締切：各回見学翌日）。

見学内容	日程	会場
コミュニケーションデザインに関するレクチャー (アーカイブ映像視聴) ● ファーム参加者に向けた多文化間コミュニケーションなどに関するレクチャーの一部を視聴	9月1日(木) ~9月30日(金) ※アーカイブ映像の 視聴可能期間	オンライン
Asian Performing Arts Camp 中間セッション ● 公開セッションに向けた中間報告として実施するプレゼンテーションを傍聴 ※日⇄英通訳あり	9月2日(金) 時間未定	オンライン
Farm-Lab Exhibition パフォーマンス試作発表 ゲネプロ ● 滞在制作の成果発表(セリーナ・マギリユー演出作品、y/n(橋本清+山崎健太)演出作品)のゲネプロを観覧 ※定員あり(希望者全員が見学できない場合があります)	10月6日(木) 時間未定	東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエスト

- 上記の内、どの活動を見学するかは登録者自身で選ぶことが可能です(最低回数などの条件はありません)。
- 上記のほかにも、見学の機会が追加となる可能性があります。
- 「Farm-Lab Exhibition」は10月7日(金)~10月9日(日)、「Asian Performing Arts Camp」は10月16日(日)に、一般公開のプログラムを実施します。そちらもあわせて参加することを推奨します。

- Slackワークスペース「ビジター コミュニティ」での登録メンバー同士の交流(自己紹介、見学したプログラムについてのコメント投稿、情報交換 など)。

■ 登録資格 次の1~5の全てにあてはまる方

1. 舞台芸術の分野で活動している、または将来的に活動したいと考えている
2. 8月18日(木)時点で、原則18~35歳(高校生不可)
3. 全ての活動に日本語を用いて取り組むことができる
4. 東京芸術祭が行う、広報およびPRに協力することができる
5. オンラインでの活動や連絡のやり取りに必要な環境を整えられる(使用ツール: Zoom、Slack、ほか)
 - Zoomのグループビデオ通話、Slackが利用できる端末(使用ツールは、プログラム内容に応じて追加、変更となる可能性があります)
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロードなどに十分に対応できるインターネット接続環境

東京芸術祭ファームは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ラボ ガイドライン」 (https://tokyo-festival.jp/tf_farm) に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

■ 登録費 無料

■ 募集人数 30名程度（登録申込み多数の場合は抽選を実施）

■ 登録方法 登録フォームより必要事項を送信してください。

<登録フォーム> <https://forms.office.com/r/gXRk51A0rp>

<必要事項>

1. 氏名もしくはアーティスト名
2. 自分に対して使用してほしい代名詞 など (he, she, they, 名前 など / 自由記述)
3. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 専門分野
9. 所属 (あれば)
10. 登録の動機 (200字程度)
11. 「東京芸術祭ファーム2022 オンライン説明会」 (<https://youtu.be/ibnbRkYuulc>) を視聴の上、「ファーム ラボ ビジターを通して得たい」と考えたこと、感じたことを教えてください(400字以上)
12. 現段階で見学を希望する活動 (p.1「プログラム内容」参照) ※今後、変更が生じてもかまいません
13. 連絡事項 など (あれば)

■ 登録締切 2022年8月18日(木)17:00 (日本標準時)

■ 留意事項

- **登録申込み多数の場合には抽選を実施します。抽選結果および今後の見学などに関するご連絡は、8月24日(水)までにメールにてお知らせいたします。**必ず、Farm-Lab オフィスからのメール (farm@tokyo-festival.jp) が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。
- 抽選結果通知後の連絡のやり取りには、原則としてSlackを使用します。
- 各プログラムの妨げになる行為などが認められた場合は、参加を取り消しとさせていただく場合があります。
- お預かりした個人情報厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

東京芸術祭ファームをひらく“Open Farm”として、「ファーム ラボ ビジター」のほかにも、以下の機会を予定しております。是非、こちらもあわせてご覧ください。

- **公開レクチャー**
東京芸術祭ファーム ラボ 参加者向けのレクチャーの一部を一般公開します。
※詳細は、7月下旬に東京芸術祭Webサイトにてお知らせします。
- **プロセス発信**
ファーム編集室による東京芸術祭ファーム ラボ プログラムの活動レポートを東京芸術祭Webサイトで発信します。
※公開は11月頃を予定しています。

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業



協賛：アサヒグループジャパン株式会社

【お問い合わせ】 Farm-Lab オフィス MAIL : farm@tokyo-festival.jp TEL : 03-4213-4293 (平日10時~19時)

※記載の情報は2022(令和4)年7月22日現在のものです。内容などは変更になる場合がございます。

東京芸術祭ファーム 2022 テーマ 「都市をほぐす／Unlearning Cities」

「都市≠集い」

2022年の東京芸術祭ファームは「都市をほぐす／Unlearning Cities」をテーマに開催します。昨年のテーマ「都市の価値／Why Cities?」での“問いかけ”から、今年は〈都市＝集い〉の価値観を捉え直す積極的な“行為”でありたいという思いを込めました。近年東京芸術祭ファームが取り組んできたオンラインを活用した国際的なプログラムの成果発表を見ても、オンラインの目的や役割が“情報や時間の共有”から“行為や体験の創出”へ変わっているのを実感します。集まらなくてもできることは今後ますます増え、これまでの価値観を手放すならば、もはや都市に集う必要は無い〈都市≠集い〉が前提なのかもしれません。それでも都市が果たせる役割は多様性の担保ではないでしょうか。受け入れる量ではなく幅によって誰もが存在し集まることができる機能には、これからの都市の可能性を感じています。

今年のプログラムでは、国際クリエイションのチームを2チームに増やしフィールドやバックグラウンドの異なるメンバーでの様々な協働の可能性にトライします。

2ヶ月にわたるオンラインアートキャンプはアジアから参加者を公募し、日本国内からは国際クリエイション現場のアシスタント・インターンや一部プログラムへのビジター参加も可能です。学生対象の教育普及プログラムにもご期待ください。そしてガイドラインに基づき、ハラスメントの防止やセーフスペース作り、舞台芸術の環境作りに取り組めます。

先の見えないまま進む2020年代、ならば見たい未来を自分たちで作る、東京芸術祭ファームはそのための場所です。ぜひ、お集まりください。

2022年6月
東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



新しい共存と協働の場へ向けて

常識（共通感覚、common sense）が大きく変わりつつあります。アートの現場に限っても、これまで当たり前だと思われていた感覚や考えが通用しなくなってきました。かつて有効だったやり方が、機能しないばかりか、害を与え始めています。それらはおそらくこれまでも無害だったわけではないのですが、なんとなく見過ごされていたのが、いまでは明らかに人を傷つけたり、何かを破壊するだけのものになっています。

こうした感覚の変化はパンデミック以前から始まっていました。それがこの2年半に及ぶ行動様式と価値観の根底的な「洗い直し」でより明確になったのだと思います。

この2年半の間にわたしたちが経験してきたのは、新しいことの学習というよりも、知らぬ間にすでに身につけてしまっていたものの「脱学習」、アンインストールだったのだといえます。これまで無自覚に、無批判に、享受し行使してきたものに、いったいどんな価値があったのか／なかったのか、いったん体から抜き、解きほぐし、検証し直す時間でした。そのうえであらためて、フェアで、みなさんの幸福につながるような集団創作や協働の形を、自分たちの手でどのようにして作るのか。他者との共存と交流の象徴としての都市を、どうやって再発見・再構築するのか（する必要があるのか?）。今年のテーマ「都市をほぐす／Unlearning Cities」に、わたしはそんな期待を込めています。

東京芸術祭ファームは、社会全体の大きな変わり目にあって、従来のやり方への違和感と変化への期待をもつ人が集まって、土を耕し、種を蒔き、苗を育てるための場です。われこそはと思う人はぜひ参加してください。

2022年6月
東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確



コミュニケーションデザインについて

東京芸術祭ファームでは、国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、その出自や立場に関わらず参加者全員が安心して創作に挑める環境を整えるため、企画の段階からコミュニケーションデザインチームがプログラム設計に関わっています。

2022 年度コミュニケーションデザインチーム

Art Translators Collective

チーフ：田村かのこ

メンバー：山田カイル、水野響、春川ゆうき、森本優芽、植田悠

<取り組みの一部>

■東京芸術祭ファーム ラボ ガイドラインの導入、整備

差別やハラスメントなどの人権侵害の発生を防止するためのガイドラインを制定し、東京芸術祭ファーム ラボに関わるすべての人にその遵守をお願いしています。また、ガイドラインの内容は毎年見直し、より良いガイドラインの制定に努めています。

■希望するジェンダー代名詞の確認、ジェンダーアイデンティティの尊重

ミスジェンダリング*を防ぐため、昨年から応募フォームには自分が使って欲しい代名詞（代名詞を希望しない場合には名前等）を記述式で書き込めるようにしています。創作期間中も、それぞれの代名詞を尊重するために、知識と意識の共有を徹底していきます。

*本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをする差別行為（例：見た目性別を憶測して判断した人称代名詞や敬称を相手に用いる）

■言語やコミュニケーションの多様性を尊重したアート・トランスレーション

アジアの国々からの参加者が集まる東京芸術祭ファーム内でのコミュニケーションには、共通語として「英語」が用いられますが、土地や文化により英語のあり方も多様です。コミュニケーションデザインチームは、それぞれの話す英語を尊重し、英語が流暢な人もそうでない人も対等に話せるような環境を設計し、言語の変換にとどまらない通訳・翻訳を行います。また、文化の違い等によりコミュニケーションの取り方もさまざまです。一つの文化マナー（たとえば日本の常識）に人々を従わせるのではなく、それぞれの持ち寄る観点からこの場に必要なコミュニケーションのあり方を探っていきます。

■学習機会の提供

以上の取り組み等について、参加者が事前に必要な知識をつけるためのガイダンスやレクチャー、ワークショップを実施します。

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであった APAF（Asian Performing Arts Farm）にフェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し 2021 年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーでさまざまなプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム 2022 ページはこちら https://tokyo-festival.jp/tf_farm